

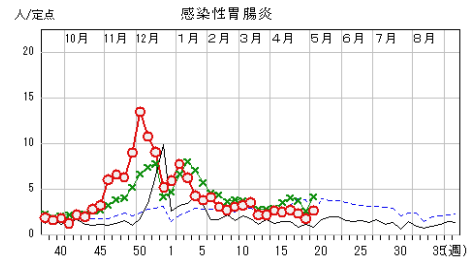
# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第19週 2022年5月9日（月）～ 2022年5月15日（日） 2022年5月19日作成

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

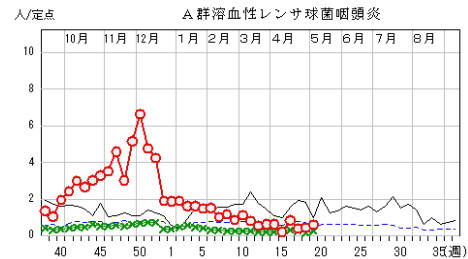
### （1） 感染性胃腸炎

第19週の報告数は116人で、前週より37人多く、定点当たりの報告数は2.64であった。  
 年齢別では、2歳（22人）、10～14歳（20人）、1歳（17人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（7.33）、長崎市保健所（4.00）、県央保健所（3.50）であった。



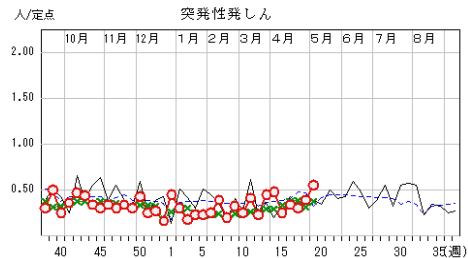
### （2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第19週の報告数は26人で、前週より6人多く、定点当たりの報告数は0.59であった。  
 年齢別では、2歳（5人）、3歳（5人）、10～14歳（5人）が多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（4.40）であった。



### （3） 突発性発しん

第19週の報告数は24人で、前週より7人多く、定点当たりの報告数は0.55であった。  
 年齢別では、1歳未満（13人）、1歳（8人）、2歳（2人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（1.67）、県央保健所（0.83）、県南保健所（0.60）であった。



○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      - - 前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【感染性胃腸炎】

第19週の報告数は116人で、前週より37人多く、定点当たりの報告数は2.64でした。地区別に見ると県北地区（7.33）、長崎地区（4.00）、県央地区（3.50）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

## 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第19週の報告数は26人で、前週より6人多く、定点当たりの報告数は0.59でした。地区別にみると県南地区（4.40）は、ほかの地区よりも多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

## 【突発性発しん】

第19週の報告数は24人で、前週より7人多く、定点当たりの報告数は0.55でした。

本疾患は乳幼児期に発症するのを特徴とする熱性発疹性疾患で、原因の多くはヒトヘルペスウイルス6および7です。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現します。随伴症状として、下痢、眼瞼浮腫、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがあげられますが、多くは発熱と発疹のみで経過します。ほとんどが2歳未満に罹患し、予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみで、特に予防が問題となることもない疾患です。

## ☆トピックス：梅毒の報告数が増加しています

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。症状が出ない無症候性梅毒の状態で、永年にわたり気がつかないまま過ごすケースもあります。先天梅毒では、乳幼児期に皮膚病変や全身性リンパ節腫脹等を呈する症例や学童期以後に実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯などを呈する症例があります。

長崎県では2018年、2019年の患者報告数が多く、2020年は減少しましたが、2021年は40名（患者32名、無症状病原体保有者8名）の報告がありました。2022年も第19週までに15名の報告があがっており、過去の同時期より多くなっています。

梅毒は早期に診断がされれば治療は比較的容易とされていますが、診断の遅れから神経梅毒などを発症し後遺症が残ることも稀ではありません。早期に治療を始めることが重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

（参考）国立感染症研究所 梅毒（外部のページに移動します。）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis.html>

